

TOKYO Medical Biobank に脳脊髄液検体をご提供いただいた方へ  
1995年4月1日から2021年11月30日までに当院で脳脊髄液検査を受けられた方へ  
1999年4月1日から2003年3月31日に病理解剖を行ったご遺族の方へ

●研究の名称 レビー小体病診断における異常蛋白質増幅法の検討

●研究の対象 2021 年12 月1 日から2028 年3月31 日までにTOKYO Medical Biobankに血液・脳脊髄液検体をご提供いただいた方 または1995年4月1日から2021年11月30日までに当院で脳脊髄液バイオマーカー検査を行いセンター内に残余脳脊髄液検体がある方  
または 1999年4月1日から2003年3月31日に病理解剖を行い剖検時の脳脊髄液検体のある方

●研究の期間 研究倫理審査委員会承認日～2028年5月 31日（解析期間含め）

●研究の目的

脳脊髄液は脳や脊髄の近くにある無色透明の液体で、神経疾患における脳の状態を反映した変化を認めます。レビー小体病（レビー小体型認知症、パーキンソン病）は脳内に異常な $\alpha$ シヌクレインタンパク質の蓄積を特徴とする神経疾患です。レビー小体病における $\alpha$ シヌクレインは異常に凝集した状態で脳内に存在し、脳脊髄液中にもこの異常なタンパク質が少量存在することが知られます。そこで本研究ではこれらの脳脊髄液中の異常なタンパク質を高感度な方法で検出し、臨床応用できるかを検討します。また高感度な方法で血液中でも同様に検出可能かを検討します。

●研究の方法

当センターで保管しているレビー小体病及び他疾患の方の脳脊髄液・血液検体を用いて real-time quaking-induced conversion (RT-QUIC) という異常タンパク質を増幅して検出する方法を用いて $\alpha$ シヌクレインの異常な凝集タンパクが脳脊髄液中に存在するかを検討し、レビー小体病の診断における有用性について検討します。

## ●研究に使用する試料・情報

情報：年齢、性別、既往歴・合併症、併用薬、病歴、身体所見、臨床診断名  
他の検査結果（血液検査、画像検査、病理検査など）

試料：血液（血漿、血清）、脳脊髄液

## ●個人情報の保護

本研究ではTOKYO Medical Biobankにご登録いただいた方の検体と、これまでに当センターで脳脊髄液検査を受けられた方と、病理解剖時の脳脊髄液検体の残検体がある方の試料・情報を使用させていただきます。

TOKYO Medical Biobankからご提供いただく検体および情報は、個人を特定できる情報とは切り離されたIDを付して本研究に提供されますので、個人が特定されることはありません。

当センターで脳脊髄液検査をされた方及び病理解剖時の脳脊髄液検体の残検体がある方の検体および情報は、個人情報とは紐づかない研究用IDを付して管理し、研究に使用させていただきます。

研究の結果を公表する際は、個人を特定できる情報を含まないように致します。また、みなさまの個人情報が院外に漏れないよう十分配慮いたします。

尚、本研究の共同研究機関である長崎大学大学院医師薬学総合研究科には匿名化後の試料・情報のみを提供しますが安全管理措置が講じられていることを確認します。

## ●資料の入手または閲覧、開示

本研究の計画や方法については、あなたのご希望に応じてあなた自身の資料の要求または閲覧ができます。今回測定するバイオマーカーはあなたがご自分の研究結果を知りたいと希望される場合は、研究担当者にその旨をお伝えいただければ、ご希望に添えるように努めます。

また、研究への協力撤回を表明された場合は、速やかに研究での利用を停止いたします。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることはございません。しかしながら、すでに研究に使用されていた場合には、結果の削除など十分なご対応ができない場合がありますことをご了承ください。

## ●研究組織

東京都健康長寿医療センター 脳神経内科 栗原 正典（試料・情報の管理、解析）  
脳神経内科 岩田 淳（監督）

脳神経内科 嶋崎 亮介（解析）

神経病理学/高齢者ブレインバンク/高齢者バイオリソースセンター

齊藤祐子（病理解剖時検体・データの保管・提供）

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 医療科学保健科学分野 佐藤克也（測定）

●お問い合わせ先

〒173-0015 東京都板橋区栄町35番2号

東京都健康長寿医療センター 03-3964-1141

連絡先：脳神経内科 栗原 正典

（平日9：00～17：00）